

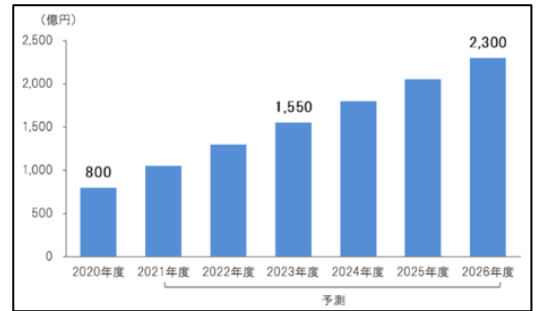
中小企業新事業進出補助金 補足資料の作成例

新規事業の将来性 | 市場規模データ

「フレキシブルオフィス」の市場は成長中

1. 「フレキシブルオフィス（レンタルオフィス・シェアオフィス等）」市場は2026年までに3倍超見込み

共用型のオフィスのことを、『フレキシブルオフィス』と呼ぶが、この形態は、個人事業主やスタートアップ企業の活動の場としての需要を取り込み、市場を形成してきた。日本能率協会総合研究所の調査（右図）では、2020年度の市場規模は800億円だが、今後、2026年には2300億円にまで規模が広がると見られている。



2. 様々な業種が狙っている市場だが、現状、飽和の様子はない

外出自粛の影響で経営状況が悪化したホテルや、カラオケ・レストラン・居酒屋などが、『シェアオフィス事業』への参入を続々発表している。それでも現状、飽和する様子はなく、今後も、リモートワークの場としてのフレキシブルオフィス利用ニーズの拡大は確実と言える

「そろそろ利用者からクレームが来るかも」。東京電力ホールディングス（HD）のソリューション推進室事業推進グループに所属する佐藤和之マネージャーは、東京都目黒区で運営する法人向け郊外型シェアオフィス「SoloTime（ソロタイム）自由が丘」の利用状況を前に苦笑いを浮かべる。10月の開業から1ヶ月以上、全20席中11席ある個室の予約がほとんど取れない状態だからだ。すでに混雑緩和などを目的に「（同じエリアでの）2店舗目の出店を狙っている」（佐藤マネージャー）という。（<https://newswitch.jp/p/24939>）

計画書作成例のポイント

こちらは、新事業の将来性、市場の成長性について説明するための資料です。

現在の市場規模がどの程度で、今後の市場規模がどの程度か、説明します。

大切なことは、なるべくグラフのある情報を探すことと、情報ソースをきちんと明らかにすることです。